

対象国の条件:

研修コース番号 :J1804406

案件番号 :1884967

主分野課題 :水産/水産増養殖

副分野課題 :

使用言語 :英語

案件概要

世界的に漁獲量の伸びが低迷する中、動物性タンパクの供給源として、簡便な技術と限られた費用で生産が可能な小規模内水面養殖への期待が高まっている。日本の水産養殖の研究開発は先進のレベルにあり、またJICAは、東南アジアやアフリカ地域で農民間普及による小規模内水面養殖普及プロジェクトを実施している。本研修は、日本における講義と東南アジア漁業開発センター（SEAFDEC）における実習を組み合わせたデザインとなっており、養殖に関する知識及び現場実践の能力向上を図るとともに、将来的に各国の政策立案に寄与する人材の育成を図るものである。

目標/成果

対象組織/人材

【案件目標】
各国に適応できる小規模内水面養殖技術に係る能力が向上する

【対象組織】
水産行政機関（国、地方）
水産調査研究機関（国、地方）

【成果】
小規模内水面養殖の理論と技術を修得する

【対象人材】
職位：内水面養殖の振興、普及又は技術開発に従事する者
職務経験：3年以上
学歴：大学卒業同等以上
語学：英語また仏語で議論し、レポートの作成が可能なレベル

内水面養殖技術の先進的な動向について理解を深める

内水面漁業の伝統的・文化的価値の確立と共有・発信のための日本の取り組みについて理解を深める

内 容

- (1) 講義
 - 魚種別養殖技術（コイ、ティラピア、ナマズ等）
 - 親魚管理（育種）
 - 種苗生産
 - 餌料開発
 - 魚病対策
 - 水質管理（施肥）
 - 養殖施設設計建造
 - 養殖技術の開発と普及（栄養改善とジェンダー主流化）
 - 漁民組織による漁場管理と漁獲物の高付加価値化
 - 内水面漁業及び養殖に関する制度（水産資源の管理）
- (2) 実習
 - 種苗生産
 - バイオテクノロジー技術の活用
 - 魚病診断
 - 内水面養殖技術
- (3) 見学
 - 世界農業遺産「清流長良川の鮎」
 - 内水面養殖場施設
 - 種苗生産施設
 - 養殖研究施設
 - 水産加工、流通、販売施設
- (4) アクションプランの作成と発表

本邦研修期間

2018/9/24～2018/10/31

担当課題部

農村開発部

所管国内機関

JICA中部

関係省庁

農林水産省

実施年度

2018～2020

主要協力機関

岐阜県内水面漁業研修センター、東南アジア漁業開発センター 養殖部局（フィリピン国）、東京海洋大学 水産研究・教育機構

特記事項
及び
ホームページ